



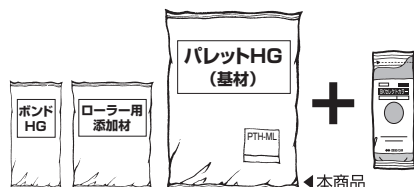
**ご使用の前に**

## まず、商品をご確認ください!!

基材の種類によって使用方法が異なりますので、ご注意ください。

### ①SKセレクトカラー着色タイプ ⇒PTH-ML

基材だけの使用はできません。  
必ず所定番号の「SKセレクトカラー」(別梱包)  
を混練りしてご使用ください。



### ②基材のみで使用するタイプ ⇒PTH-001

「SKセレクトカラー」は必要ありません。  
基材だけでご使用ください。



# パレットHG ローラー塗りタイプ

## 施工要領書

### 適応下地

#### ■ 外装の場合

- **セメントモルタル** …… 木鏝をかけたあと金鏝で表面を軽く押さえて平らにしたもの。  
※強度低下の著しいモルタルやその表面が平滑でない場合は、再度モルタルで全面補強してください。  
※「ex.シーラー」(別売)で全面にシーラー処理を行ってください。
- **RC** …… 「SKカチオンプラスター弾性タイプ」(別売)で全面下地処理後、施工してください。
- **古い外壁面** …… 「SKカチオンプラスター弾性タイプ」(別売)で全面下地処理後、施工してください。  
(強度のあるもの) ※シリコン系・フッ素系塗膜面・撥水面などには、施工できません。
- **コンクリートブロック** …… 「ブロックプラスター」(別売)で全面下地処理後、施工してください。  
※「ブロックプラスター」を塗布せず施工した場合は、ブロックの目地が残ったままの仕上がりとなります。  
(その場合も「ex.シーラー」の塗布は必要です。)

下地に関する注意事項

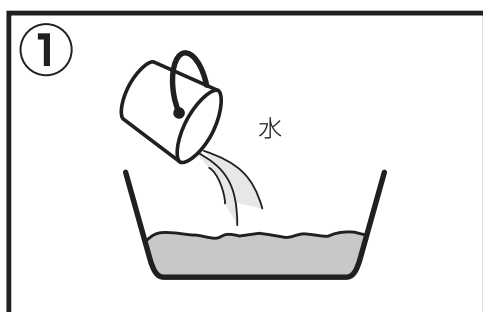
- 下地は平らに仕上げ、十分乾燥させてください。
- 強度がない下地は、剥離の原因になりますので、塗り直してください。
- 塗り面のゴミ、油分、カビ等は予め取り除いてください。
- カビが発生している場合は「カビ止めシーラー」(別売)で処理してください。
- 釘などで錆の恐れがある場合には、錆止めを施してください。また、塗り替えて釘頭が錆びている場合は、サンドペーパーや研磨布を用いて錆を除去し、錆止めを施してください。
- モルタル下地のひび割れは、アクリル系、変性シリコン系、樹脂セメント系等の充填材による補修を行ってください。
- ブロックの目地部のひび割れは、モルタルによる補修を行ってください。
- 製品自体に白華の原因となる成分は配合されておきませんが、ブロック塀等の下地の白華に起因した白華現象が生じる場合があります。
- 下地が白華している場合は、白華を除去した後、「ジュラックスシーラー-B」(別売)を塗布してから施工してください。また、白華の恐れがある場合も、「ジュラックスシーラー-B」を塗布してから施工してください。
- 埋め込み式のポスト・インターホン・小窓などを使用する際には、周辺部をコーキングし、下地への雨水の侵入を防止してください。
- 上端(天端)は、下地を凸状に仕上げ、水がたまらない構造にしてください。
- 巾木(基礎)部及び土留めには施工できません。

#### ■ 内装の場合

- **ボード用石膏プラスター**
- **セメントモルタル**
- **石膏ボード** …… 「SK簡易工法」または「SK工法」に準じて下地処理したもの。  
※詳細については、別途見本帳をご覧ください。

# 使用方法

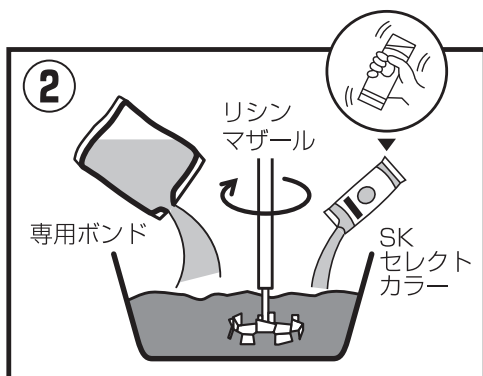
## ■ 練り方/1袋の場合



### 標準加水量

|        |               |
|--------|---------------|
| ローラー塗り | 2.5ℓ/1袋(6.6㎡) |
|--------|---------------|

容器に標準加水量の8割(約2.0ℓ)の水を入れます。

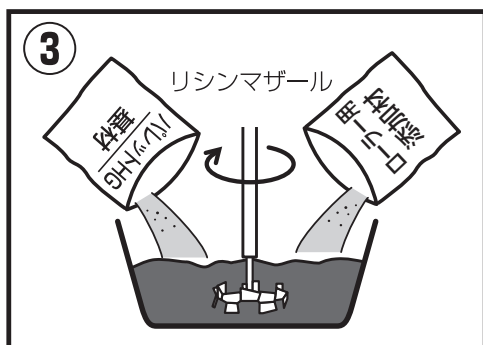


添付の「ボンド」及び「SKセレクトカラー」(別梱包)を加え、リシンマザールでよくかき混ぜます。

※必ず所定色番号の「SKセレクトカラー」を使用してください。使用しない場合、着色できません。

※「SKセレクトカラー」は袋をよく揉んでから使用してください。必ず全量を使いきってください。

S001のみ「SKセレクトカラー」は必要ありません。



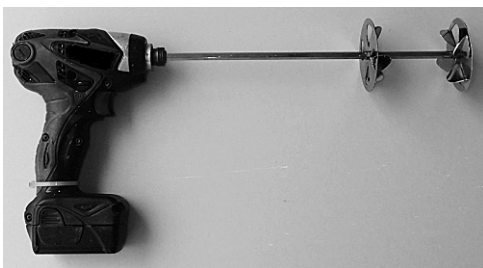
次に「パレットHG 基材」と「ローラー用添加材」を加え、軽く練り上げた後、20分ほど練り置きし、下地の状況により残り水を加えて、よく練り上げます。

※水の入れ過ぎは、塗り面がダレますので注意してください。

※同一面での塗り継ぎは色ムラや段差の原因となりますので、必要な塗材は一度に混練りします。

※練り上げた材料は、早めに使いきってください。

※「カラーマイカ」(オプション)を配合する場合は、このときに加えてください。



● 攪拌機はリシンマザールの代わりにインパクトドライバーにペイントミキサー用の羽根\*)を付けたもので混ぜることも可能です。

※)E-Value六角軸ペイントミキサー6.35ジク(藤原産業製)など

● インパクトドライバーで混ぜる場合は、1袋単位で混ぜてください。

● 容器の底など混ぜにくいことがありますので、シャクなどを用いて底の方から塗材をかき上げて、再度十分に攪拌してください。

## ■ 塗り方

- 市販の「マスチック（砂骨）ローラー」で塗り付けます。
- 2度塗りを標準とします。全面に下塗り（1回目）を行い、指触乾燥後に仕上げ塗り（2回目）をします。
- 1回目と2回目で合計塗り厚1.0～1.2mmが目安です。
- 1回目と2回目の塗装間隔は夏期2時間、冬期4時間が目安です。

※1度に厚塗りをしないでください。

※仕上げは表面水が引かないうちに早めに仕上げてください。

※美しい仕上げを行うには塗り厚を均一にしてください。

※薄塗りしますと下地の透けや模様ムラの原因となります。

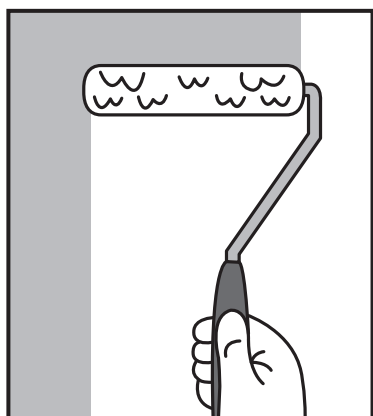
※下地（古壁）が濃色の場合や凹凸が大きい場合は、3回塗り以上が必要な場合があります。

※塗り継ぎは目地部やコーナーで行います。

※塗り付けと仕上げは二人で分担すると作業がはかどります。

※狭い場所、入り組んだ場所などローラーで塗りにくい箇所は、ハケで塗り付けてください。

※入隅の仕上げは、「砂骨コーナーローラー」が便利です。



- ① 壁面全体を「マスチックローラー」で下塗りする。（1回目）

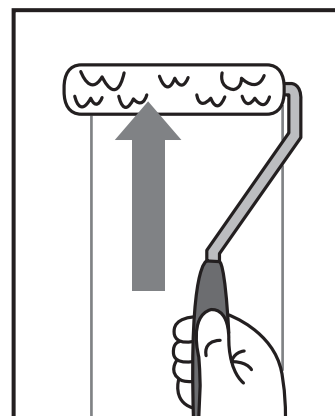
※マスチックローラーに塗材を十分に付けてください。

※一般の塗料と比べて粘りがあるため、ローラーをゆっくり転がし、押し付けるように塗り広げてください。

※塗材は上下左右に均一に塗り広げてください。塗材の付きが少ない箇所は、仕上げの際、透ける恐れがありますのでご注意ください。

1回目塗りが終わったら、しばらく乾燥させる。  
（塗装間隔の目安：  
夏期2時間、冬期4時間）

※乾燥が不十分ですと、透けの原因となりますのでご注意ください。



- ② 仕上げ塗りをする。（2回目）  
1回目と同様に塗り広げてください。仕上げはローラーを下から上など、同一方向へ転がして仕上げてください。

※塗り残しや下地の透けに注意しながら、ていねいに塗り広げてください。

## 施工上の注意

- 施工前には試し塗りを行い、色や模様のパターンの確認を行ってください。
- 塗装直後と乾燥後で塗材の色は異なります。乾燥後に本来の色になります。
- 気温5℃以下での施工は避けてください。
- 施工後、塗布面が完全乾燥するまでに気温 0℃以下になる恐れがある場合には施工を避けてください。
- 巾木（基礎）部及び土留めには施工できません。
- 乾燥しきらないうちに雨に当てないでください。降雨の恐れがある場合には、必ずブルーシートなどで雨養生を行い、塗り面に雨がかからないように注意してください。
- 乾燥時間は夏期一昼夜、冬期二昼夜を目安としますが、気象条件、塗り厚によっては、それ以上の期間を要することがあります。
- 夏期、下地が焼けるような高温状態のときは、下地に微量の水打ちをしたり日除けをして、急激な乾燥を避けてください。また直射日光を避けて作業を行ってください。
- 混練りした材料の長時間放置は避け、使用器具は早めに水洗いしてください。
- チリ廻りは、養生してください。作業中、誤ってチリ廻りやアルミサッシに塗材を付着した場合には早めに洗い流してください。
- 大きな面に施工する場合、美しい仕上げを行なうために 1.8m ピッチ程度で見切り目地を入れてください。
- 粉体原料と液体原料はセットされた同一銘柄のものを使用してください。
- 必ず所定の使用方法に則ってご使用ください。
- 直射日光の当る場所、湿気の高い場所、高温（40℃以上）、低温（0℃以下）での保管は避けてください。
- 本品は天然土・砂が主原料ですので、ロットによる多少の色違いはご容赦ください。
- 開封後はその日のうちに使いきってください。やむをえず保存する場合は、塗材の表面にビニールを張るなどしてください。水を張ることは避けてください。

## 関連商品

- 「カラーマイカ」（別売）を使用することにより、複色のテクスチャもつくれます。詳細については、見本帳、個別の施工要領書をご確認ください。

## 注意事項

- 安全に関する注意事項については、包材の裏面、安全データシート（SDS）をご確認ください。

ご不明な点がございましたら、詳細は包材の裏面に記載してありますので、ご覧ください。